

偽情報ガイドライン

2023/10/1

偽情報研究所

Institute of Disinformation

<https://disinfox.com>

1. 偽情報の定義と範囲

- ****偽情報 (Disinformation) ****とは、悪意を持って意図的に誤解を招く情報を広める行為です。
- ****誤情報 (Misinformation) ****とは、意図せずに広まる間違った情報であり、必ずしも悪意があるわけではありません。
- **範囲**：誤った健康情報、政治的プロパガンダ、詐欺的ビジネス情報、デジタル偽造画像や動画（ディープフェイク）などが含まれます。
- 偽情報のカテゴリ
 - 誇張：事実を過度に大きく、または小さく見せることで、印象を強めたり弱めたりする。
 - 断片的な事実提示：文脈や背景を省いて、特定の事実のみを切り取って伝え、全体像を誤解させる。
 - 偏った解釈：事実に基づいているが、解釈が極端または特定の方向に偏っている。
 - データ捏造・改変：事実を基にしながらも、データや統計を意図的に改変し、結論を誤らせる。
 - 疑似科学：科学的な用語や根拠をあたかも科学的に正しいかのように装って伝えるが、実際には科学的根拠が乏しい。
 - 誤引用：他人の言葉やデータを誤って引用したり、一部だけを切り取って別の意味に解釈する。
 - 偽の専門家：権威や専門家の立場を装った人物や団体が情報を発信し、信頼性を装う。
 - 時間軸操作：過去の事実や出来事を現在のものとして扱う、または逆に、現在の情報を過去の出来事に当てはめる。
 - 対立強調：小さな意見の違いを誇張して対立構造を作り、事実が大きな論争を生んでいるかのように見せる。
 - 陰謀論：一部の事実をもとに、実際には証拠のない陰謀の存在を主張する。
 - 印象操作：特定の感情（恐怖、不安、怒りなど）を引き出すために事実を選択し、偏った視点から情報を提供する。
 - 予測偽装：未来の可能性をあたかも確実な事実のように報じることで、事実とは異なる印象を与える。
 - 誤解タイトル：記事の内容とタイトルが異なり、誤った期待や印象を与える。
 - 情報偏向(フィルターバブル)：特定の立場や意見に沿うように事実を選別し、あたかも唯一の真実であるかのように装う。

○

●

2. 偽情報の検出方法

- **情報源の確認**：信頼性のある公式機関や報道機関かを確認します。不明な出典や根拠のない主張には注意が必要です。
- **内容の検証**：専門家や事実確認サイト（ファクトチェック）で、情報が正確かどうかを確認します。
- **メディアリテラシー**：画像、動画の偽造手法や、情報が編集された痕跡を理解することで、フェイクニュースを見分けやすくなります。

3. 偽情報への対応

- **情報共有の慎重化**：内容に疑問を感じた場合、むやみに他者へ転送しないようにします。
- **訂正情報の周知**：偽情報が拡散されている場合、事実に基づく情報で積極的に訂正します。特に公共の利益に関わる場合は迅速な対応が求められます。
- **教育と啓発**：周囲に対して、偽情報のリスクや見分け方について教育を行うことが効果的です。

4. 偽情報の予防策

- **メディアリテラシーの向上**：一般ユーザーが偽情報を見分けられるよう、教育プログラムを提供することが重要です。
- **公式情報の発信強化**：公的機関や信頼性の高い組織からの情報発信を強化し、誤情報を未然に防ぐことが効果的です。
- **AIと機械学習による監視**：SNSやウェブサイトにおける偽情報の自動検出システムを導入し、拡散の抑制に努めます。

5. ユーザーへの啓発活動

- **自ら検証する習慣の育成**：情報を受け取った際には、その内容や信憑性を個人でも検証することを推奨します。
- **疑わしい情報への注意喚起**：特にソーシャルメディア上でバイラル化しやすい情報は、注意が必要です。
- **信用できる情報の見極め**：公式の政府機関や権威のあるメディアからの情報のみに頼る習慣を促進します。

6. 技術的なサポート

- **信頼性検証ツールの使用**：偽情報のチェックができるアプリや拡張機能を活用することも、効果的な対策の一つです。
- **ディープフェイクの検出ツール**：画像・動画を解析して、AIによる偽造が行われているかどうかを確認できるツールも導入する価値があります。